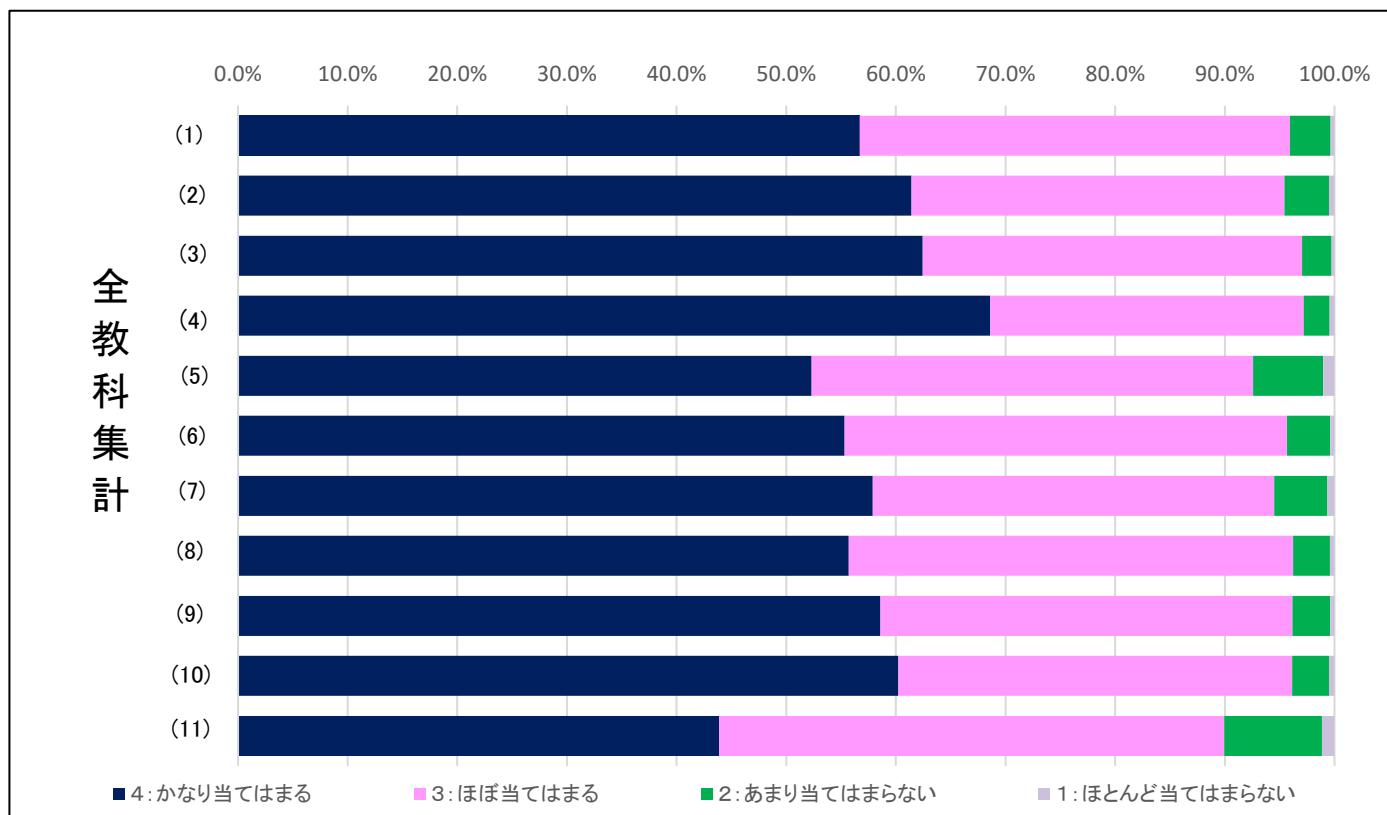
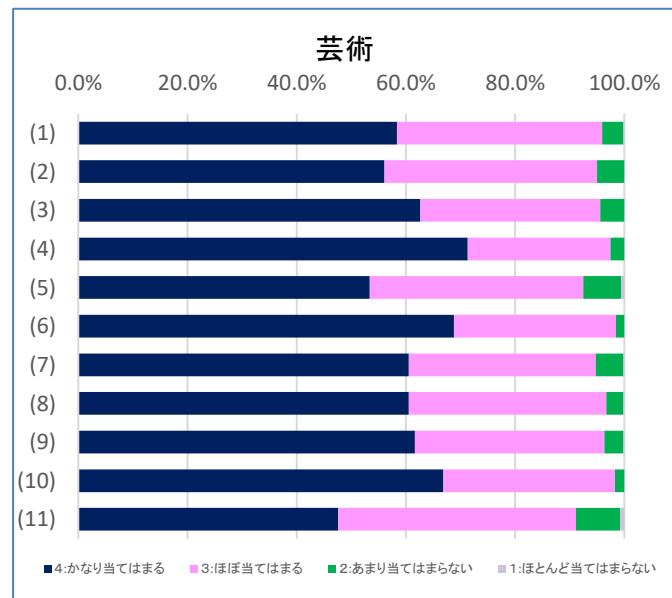
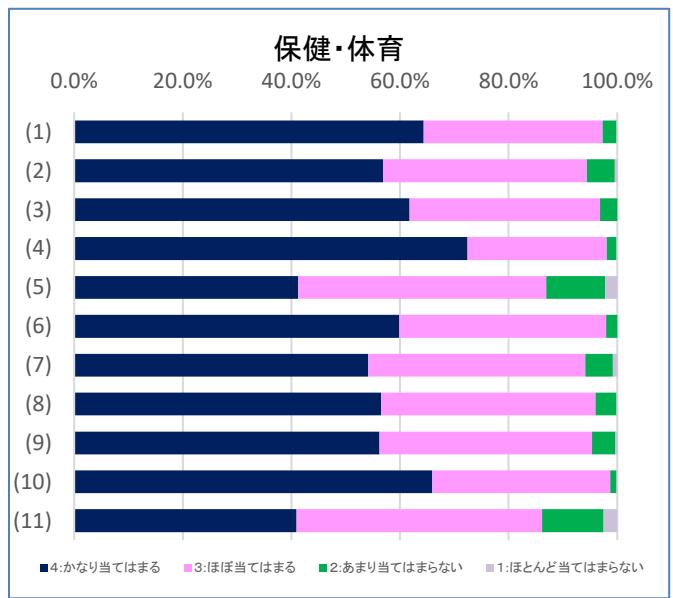
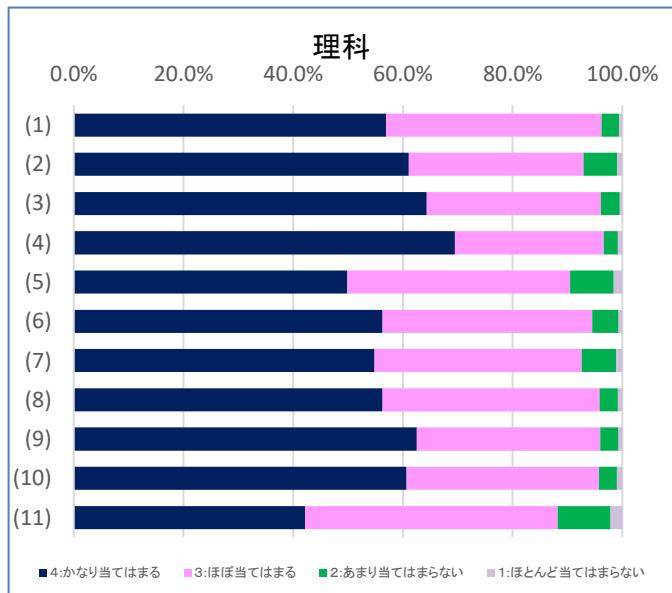
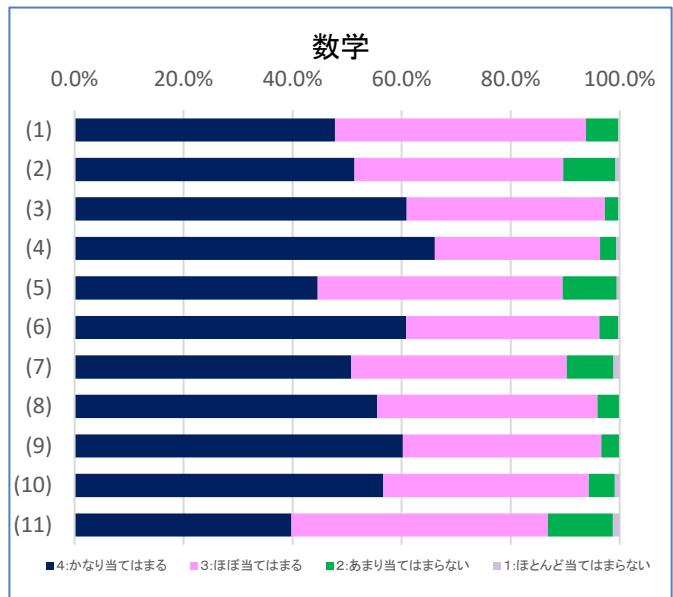
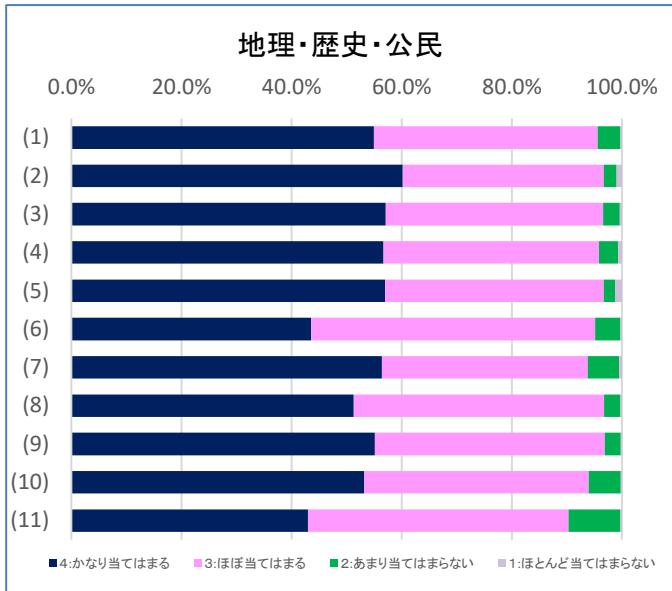
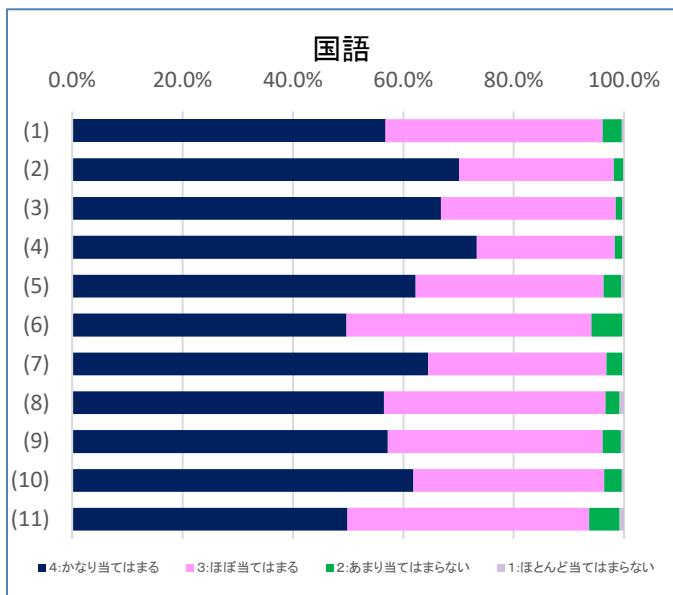
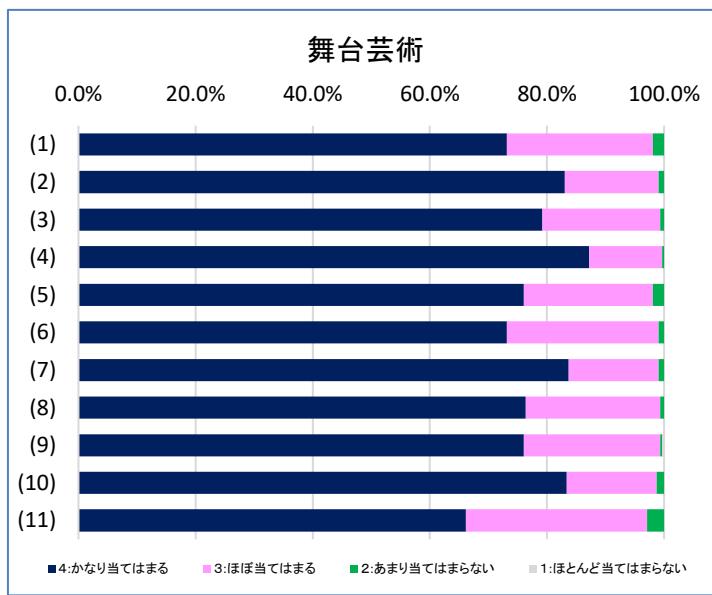
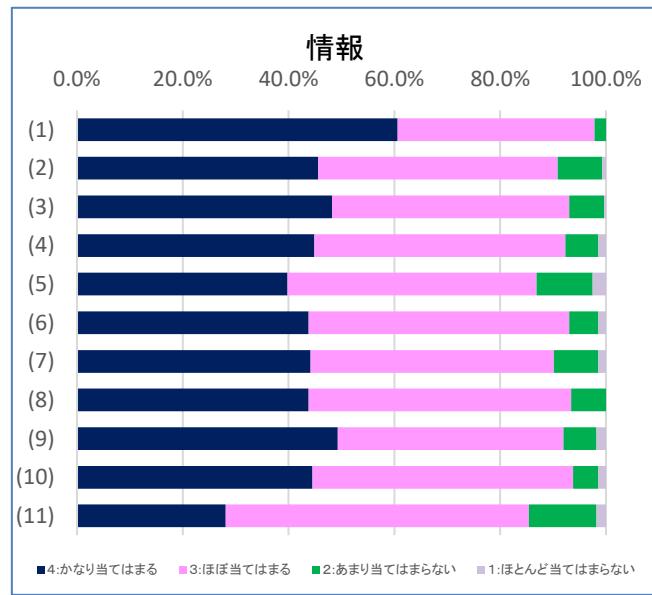
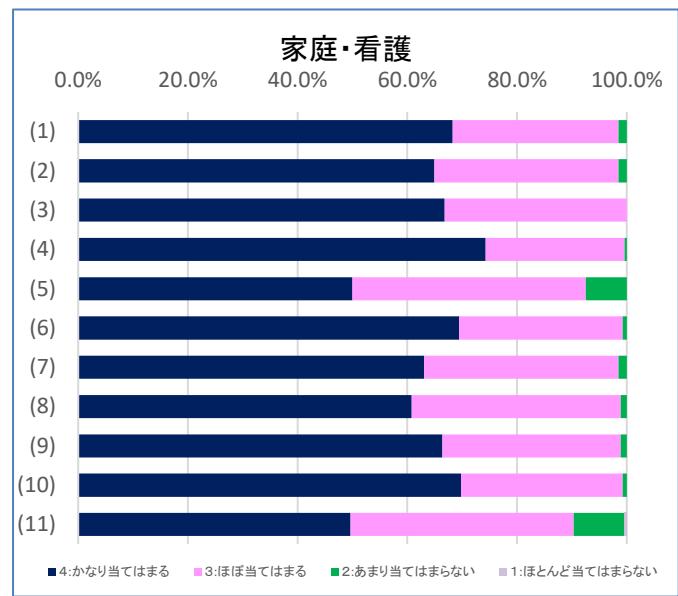
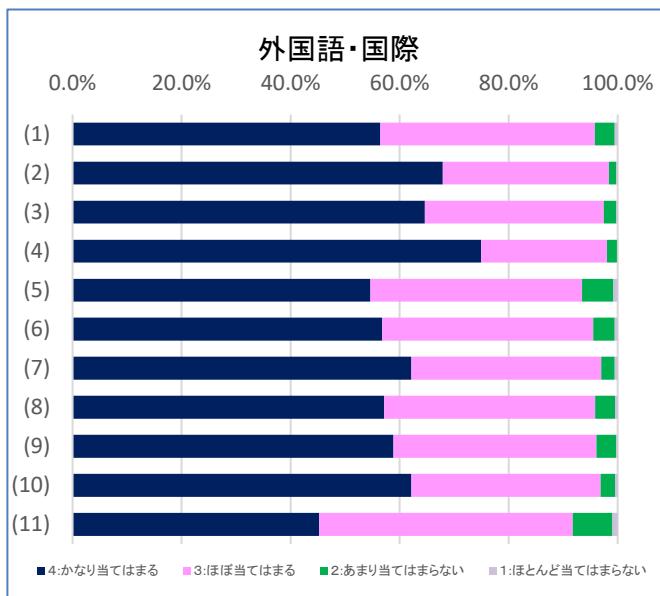


令和6年度 第2回「生徒による授業評価」集計結果一覧 (令和6年11月11日～11月29日実施)

大項目	小項目
授業の在り方について	(1) 每時間の授業や単元(内容のまとめ)のはじめに学習のねらいを示したり、毎時間の授業や単元の学習のあとに学習したことを振り返ったりする機会がある。
	(2) 単元(内容のまとめ)の学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある。
	(3) 単元(内容のまとめ)の学習の中で、課題について自分の考えをまとめたり、解決方法について考える場面がある。
	(4) 主体的・協働的に課題を解決する場面がある。
	(5) 批判的・論理的に思考し、表現する学習活動がある。
学習の状況について	(6) 授業の中で身に付いたことや、できるようになったことを実感することができた。
	(7) 他者の考えを知ることにより、新たな考え方を知るなど、自らの考えをができた。
	(8) 授業で得た知識をもとに、自分の考えをまとめたり、課題の解決方法を考えたりすることができた。
	(9) 授業で学んだことをそれまでに学んだことと関連付けて理解することができた。
	(10) 主体的・協働的に課題を解決に取組むことができた。
	(11) 批判的・論理的に思考し、表現することができた。
評価について	各授業内にて記名式で行い、「4:かなり当てはまる、3:ほぼ当てはまる、2:あまり当てはまらない、1:ほとんど当てはまらない」の4段階で評価する。







令和6年度 第2回「生徒による授業評価」教科検討事項

教科	授業評価分析結果・課題点	授業改善に向けての具体的取組み	
国語	<ul style="list-style-type: none"> 全科目において、「はじめにねらいを示す」「考えを広げ深める機会がある」の項目が高い傾向にある。 少人数科目の満足度が全体的に高い。 全科目において、できるようになったことを実感することができた、の項目への評価が低い。おおむね前期よりも低い。 	<ul style="list-style-type: none"> 教員の異動に影響されない取り組みを継続する。 大人数の必履修科目においては、小グループでの活動を取り入れるなど、似たような環境での授業を考える。 活動の場面を増やし、実感の機会を設けたい。 	
地理 歴史 公民	<ul style="list-style-type: none"> 指導すべき内容が多く、多岐に渡る教科の特性がある上に授業時間は制約されている。一方で生徒は教科書を終わらせてほしいという強い要望がある。そのような現状の中、後期も自ら考える機会や協働的な学びを行う時間を多くはとれず、その観点での評価が低くなっている。 前期に比べ各教科での工夫は見られるが、内容が身についたできるようになったという実感が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元のまとめを協働的に行う学習活動など、自ら考える機会や協働的な学びを行う時間を可能な限り、入れていく。また、授業内容を精選し、そのような活動を行う時間を作る。 少しでも演習的な時間を取り入れていく。授業冒頭の時間の使い方を工夫し、生徒が見通しをもって授業を受けられるように工夫していく。 	
数学	<ul style="list-style-type: none"> 数学B、Cでは、すべての質問項目に対し、4(かなりあてはまる)が60%を超えていない。基本事項を伝達する場面が多く、より応用的な問題に協働的に取り組む場面が少ない。 発展的な科目・内容になるにつれ、項目(5)、(11)について、3・4の割合が高くなっていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本事項を学ぶ際にも、単純な知識伝達でなく、意味を理解するような仕掛け、その中で協働的に解決する場面を創出する。 基礎的な項目を扱う段階から、異なる視点に基づく解法や思考を揺さぶる問題を選択する。 	
理科	<ul style="list-style-type: none"> 項目(5)、(11)批判的・論理的に思考し学習する及び表現する活動が50%以下である。各科目で他者の考え方や考察する機会が少ない。 項目(7)他者の考え方を知ることに対する活動が50%以下である。他者の視点を取り入れた柔軟な思考力を取り入れる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な現象等について考察する時間を設けるなどを行い、根拠や理由を明確にし、より良い結論を導き出す機会を授業内で設けるような展開を行う。 グループディスカッションを活用し特定の事象について話し合うことで多様な視点を知る機会を増やす。また、アウトプットすることで個々の考え方を知る機会を増やし主体的に学習する姿勢を身につける。 	
保健 体育	<ul style="list-style-type: none"> 授業のあり方について、概ね満足度は高いものである。特に主体的協働的に課題をまとめたり解決する場面の設定について高い評価を得た。 批判的・論理的に思考し、表現する学習活動については、学習の中で、他者の行動や考え方を分析して課題解決することを生徒に意識づけができない現状だと考える。 日常生活の中で保健に関する話をあげてそれに対して生徒の興味関心を高めることができている。思考する機会も多いと思われる。体育同様さらに批判的思考力を高める活動を取り入れていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度生徒の主体的な授業運営等を積極的に取り入れた。継続して教科全体で現状の課題だけなく、良い取り組みについても情報共有をしながら教科全体で授業改善に取り組んでいく。 活動の意味やフレーズや動きのポイントをしっかりと理解させ、改善する視点を指導することで、生徒が批判的思考をし、課題改善できるよう促していく。 今後も身近な話題や日常生活を内容と関連させることで、関心の高い授業展開を目指していく。思考したことをプリントにまとめたり、発表したりする機会を設けることや、さまざまなデータや考え方と自らの意見を比較して考察できるようなグループワークやペアワーク、調べ学習やプレゼンなどの活動を積極的に取り入れていくことで批判的思考力を高めていく。 	
芸術	音楽	<ul style="list-style-type: none"> 満足度は概ね高い。 生徒が意欲的に取り組める授業をさらに展開していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業について、様々な視点からの意見交換を行う。 生徒が協働的に課題に対し取り組めるよう工夫する。
	美術 工芸 書道	<ul style="list-style-type: none"> 満足度は概ね高い。 講評や授業中のやりとりで言語活動を取り入れているが、「批判的活動」と結びついていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 多様な技法、教授のしかたについて、他校とも情報交換を行い、積極的に取り入れていく。 他の作品について批判的意識をもつことができるような指導方法を模索する。
外国語 国際	「批判的思考の育成」に関する項目で2がつく傾向が高かった。	<ul style="list-style-type: none"> ①「授業で得た知識を使った正解のない問題を発問する」ことを中心に授業展開を進める。 ②ディベートやディスカッション等で「教科書内の形だけの指導」にならないよう授業形態を工夫する。(例:ディスカッションで他の人の意見を書かせて他の人の意見を説明させる、ディベートやディスカッションのまとめを作らせて発表させる。) ③授業で得た知識を使う時間と批判的、多角的に考える時間の間隔が短いほど生徒も授業に参加しやすいのではないか。理想は教科横断型の授業ができるところだが、難しければ事前に他教科教員に聞いた内容を発信するなどの工夫ができればやりやすいのではないか。 ④ディスカッションの時に必ずメモを取らせるようにしたら、多面的な考えができるようになった。スプレッドシート等のアプリを使うことでより効果的に考えを交わせるようになり、多面的な考えができるようになるのではないか。 	
	「主体的・協働的に課題を解決する」に関する項目でネガティブな評価が増えてしまった。	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒の言語能力に依存してしまうところがあるのではないか。英語が出てくるまでに時間がかかったり、物怖じしてしまう生徒への対応を考えたい。難しい英語を簡単な言葉に置き換えて話せるように、「英単語を英語で説明する練習」を積んではどうか。 ②スピーキングテストをディスカッションの形式にすることで改善が図れるのではないか。 	
	「授業で得た知識の活用」に関する項目もネガティブな評価が引き続き多い傾向にある。	<ul style="list-style-type: none"> ①スピーキングテストでロールプレイを入れる等して、実際のコミュニケーションに近づけることで改善が図れるのではないか。 ②ディスカッションをやるにしても、「ディスカッションをやること」を最終目標にするのではなく、ディスカッションを通してどのような課題を解決したいのかを目標にすれば、本項目の回答が変わって来るのではないか。 	
	Can-Doリストが達成できているかを確認できる手法が確立できているか。	<ul style="list-style-type: none"> 課題や提出物の頻度に加え、他の課題や取り組みからの評価ができないか研究したい。例えば、「ディスカッションができる」を最終評価にするのではなく、「ディスカッションを通して、意見をまとめる」ことを最終目標としてAを付ける。「動名詞を使えるようになる」を最終目標にするのではなく、「動名詞を使って自分の体験したことについて話すことができる」ことを最終目標としてAを付けるという形である。 	
家庭 看護	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に満足度は高い。特に(4)、(10)の主体的な取り組みが出来ているという回答が多かった。 批判的・論理的な思考を意識した内容が不十分だといえる。 	<ul style="list-style-type: none"> 実習に対する満足度が高い。座学についても実習と同等の経験ができる授業展開にしたい。 批判的意識を取り入れたディスカッションの時間や、論理的に説明を行う活動を取り入れていきたい。 	
情報	<ul style="list-style-type: none"> 批判的・論理的に思考し、表現することやその学習活動が少ないと感じている生徒が比較的多かった。 他者の考え方を知り、自らの考え方を広げ深めることやその機会が少ないと感じている生徒が比較的多かった。 毎時間の授業で学習のねらいを示したり、毎時間の授業や単元の学習のあとに学習したことを振り返ったりする機会があると感じた生徒が非常に多かった。 振り返り活動は、毎時間授業の終わりに課すことが多いため、振り返り機会があると感じた生徒が多かったのだと考えられる。 実技がためになって楽しい、実技をもっと増やしてほしいという意見があった。 	<ul style="list-style-type: none"> 講義形式を減らして、もっと多く実技の時間を取れるように検討したい。 課題については本当に授業時間外での課題として必要かどうか取捨選択する、必須の課題を減らして意欲のある生徒がその課題を提出する形式などを検討したいと思う。 グループワークについてもっと生徒の学びになるように1回1回の授業単体で考えるのではなく、前の授業のつながりも意識したうえで設計していく。 スライドは、もう少し必要な情報を精査して、順番も含めて検討していく。 批判的・論理的な思考の表現や他者の考え方を知り自分の考え方を深める活動というように明示していないので、ちゃんと批判的・論理的な思考の表現をする課題、他者の考え方をしり深める課題であると伝えた上で課題に取り組ませていきたい。 	
舞台 芸術	<ul style="list-style-type: none"> 「単元のまとめを意識しにくい」と回答する生徒が多めである。継続的な課題となっている。 伝統芸能は「型を学ぶ」ことが重視されるため、これらの評価項目では測りにくい面がある。 主体的・協働的に課題に取組むことができた生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業内で単元ごとのねらいや振り返りを明確に提示するように取り組み、改善はされてきているので継続したい。また、教科書・副教材がないため、他教科と比べて生徒が単元を意識しにくいのは、致し方ない面もある。 一つの科目だけで測るのではなく、舞台芸術科目の学びを全体的に捉え、伝統芸能を学ぶことの意義や、カリキュラムマネジメントにおける位置づけを意識させる。 舞台芸術科として「正解のない問い合わせに対し、協働的に取り組む姿勢」を1年次に学べるようにカリキュラムを組んでいる。2・3年次にその力を伸ばせるようにさらに工夫していく。 	